

## 令和4年度 第3回地域福祉推進会議 会議録

【日 時】令和4年12月1日（木）午後1時30分～午後3時20分

【会 場】井通交流センター2階 会議室

【出席者】12名

【事務局】14名

### 1 あいさつ

### 2 議事

#### (1) 地区別懇談会の開催状況報告について

配付された資料に基づき、事務局から説明。その後意見交換がされた。発言の概要は以下のとおり。

委員 アンケート、懇談会など、共通して出された課題に移動手段がある。必要な時に外出できない人、運転免許を返上した人もいる。デマンド型乗合タクシーなど、広報いわたや社協だよりには載っていると思うが、利用方法が複雑で自分ではアドバイスできない。一番の問題は移動手段だと思う。各地域に充実した移動手段があれば良い。各支所に相談窓口があれば良い。長野地区であれば交流センターを拠点にして、長野地区をフォローできる移動支援があると良い。障害を持つ子どもを抱える親として、自分が亡くなっても子どもが自立して生活を送れる体制が必要である。

委員長 人の生活ニーズは多様なものである。一つ目のポイントが「生活の足」の課題である。市のサービスがそれを満たすものになっているのか、地域で解決することもその一助になればよい。先進例に学ぶことも必要である。2つ目のポイントが親亡きあとの課題である。親亡き後に居場所があるのか、生活の場所があるのか。

委員 生活の足に関して、免許返納後に困ることは、通院と医療機関受診である。デマンドタクシー登録説明会を地域主体で実施した。買物支援については、杏林堂のとくし丸の移動販売の利用も進めている。高齢者などが集まり会話をすることがねらいである。地区内2カ所で実施している。

委員長 当事者に情報が届かない情報過疎が課題であり、みんなで情報共有し取り組むことが必要である。いつでも使える多種多様な居場所も必要である。公民館を使うためには鍵の受け渡しが必要であり、住民を信頼してもらうことも大切かもしれない。

委員 市社協の支所がなくなったタイミングで、ボランティア連絡協議会も支部をなくして1つになった。皆で試行錯誤して、目的別のグループを4つ決めて、各団体が所属し活動するようになった。活動目的によって分けられている。団体の活動という力を地域活動に持っていきたい。ボランティア同士、同じ悩みを共有できれば、それぞれの活動の幅が広がり地域活動につながる。団体間の交流をするボランティアまつりなどの機会を活かして進めている。当事者の団体も入っている。

- 委員長 ボランティア活動の光の部分だけでなく、悩みなどの共有も大切である。
- 委員 交流センターの使用時間が限られているが、自由に使えるようにするためには工夫が必要である。交流センターに意見が伝わればよい。ゆるく使うのは地域ごとの対応でできるのではないか。子育てや高齢者など法律や施策ごとの縦割りではなく、NPOとして横串を刺す働きかけをしていきたい。子育て支援センターも、地域の要望により相談して自由に使える場になればよい。交流センターも地域の方々とよく話し合い、自由に使用できるようになると良い。
- 委員長 横串を刺すのは良いことである。
- 委員 各地区の課題は様々である。バス路線廃止で不便になったという声がある。とくし丸で集まって話をするようになった。地域のニーズに応じて対応が必要である。ただし、地域の温度差がある。チーム団塊として地域活動しているが、あと5年すると自分たちが後期高齢者となってしまう。
- 委員長 若者世代を仲間にするということについて、若者の意見はどうか。
- 委員 総合型地域スポーツクラブを調べている。田原と竜洋で活動がある。このような活動を増やすこともよいと思う。地域力向上には若い世代の参加が必要と考える。若者と高齢者の交流や、健康増進という視点でも、運動が大切だと思う。災害時にも自分の体を守ることができる。
- 委員長 総合型スポーツクラブが広がれば若者は参加するか。
- 委員 静岡産業大学でも教室をやっている。その教室の対象者は小学生だったが、ヨガとストレッチは高齢者も参加してくれた。どちらも集まれるような企画ができればよい。
- 委員 田原FC立上げに関わった。ジュビロの芝生をもらってグラウンドを芝生化した。認知されるためにNPO法人化した。地域の大運動会やグラウンドゴルフができるようになった。ぜひ、新しい形で広がっていくと良い。
- 委員 最近、中学の部活の方向性が変わってきている。若い人たちが、自分が暮らしている地域で活動を始めている。スポーツのまちづくりということで、今までの競技型だけでなく、仲間づくりにつながる活動も広がってきている。また、競技や仲間づくりだけでなく、個人のレベルで健康的な体づくりにつながる取り組みが注目される。災害時にも、元気なシニアが元気に活躍している。移動支援についても、デマンド型乗合タクシーだけでなく、それぞれの地域に合った活動で確立していけば良いと思う。
- 委員 パラリンピックの時期が過ぎ、ボッチャなどニュースポーツをしようという雰囲気が少なくなった。障害を持った方もスポーツをやりたいがその場がない。視覚障害の方も、野球やテニスなどをやりたいという人もいる。一緒にできる場を考えていきたい。
- 委員長 地域福祉の大切な視点である。当事者の支援は大切だが、地域をどう活性化させるか、人と人がつなげるための仕掛けが必要。世代を越えたまちづくりになるよう、地域福祉の中に投げ込んでいく。個人の自立と地域の自立は大事だが、自己責任になってしまうといけない。地域の一員として、仲間として暮らせることが必要である。
- 委員 障害者スポーツについて、身障福祉会の会員対象で2ヶ月に1回青城交流センターで活動している。会員には視覚や聴覚の障害の方もいて、案内はしているが来る来ないは自由である。移動手段が一番難しい問題となっている。行きたいが移動手段がない人がい

る。会員同士の送迎も大変。事故などの責任もある。強制はしていない。スポレク交流会を行ったが、足の問題があり断念した人もいる。そのようなことも考えながら進めていってほしい。

委員長 諸団体の活動について情報を地域へ流していただき取り組むことが大切である。

## (2) 第4次磐田市地域福祉計画・地域福祉活動計画中間案について

配付された資料に基づき、事務局から説明。その後意見交換がされた。発言の概要は以下のとおり。

委員 今までは上に目標指標があったが、行政と社協の表記の真ん中になった理由はなにか。

事務局 レイアウトの問題である。

委員 地域包括支援センターは高齢者の相談機関である。アンケートの回答にあるが、8050、7040 問題の相談が増えている。親が元気なうちは良いが、パワーバランスが崩れてくると虐待等にもつながる。縦割りや年齢で区切らず、さまざまな機関との「連携」をさらに一歩進めて「一体」となり、重層的な支援ができるよう取り組んでいきたい。定年後の関わりというよりも、その前の現役世代からの関わりが重要である。退職後に孤立して60代、70代の引きこもりの相談が立て続けに入っている。

委員 介護保険施設として感じていることとして、地域の介護を担っているが、人材確保が大変難しい。サービスを調整できないこともある。その受け皿として地域の中でサポートできる仕組みを作っていくのが大切である。学校教育等でも協力しているが、コロナの影響で外とのつながりが作りにくくなっている。今までのような地域とのつながりができていないのが課題。居場所づくりについても、施設の中で解放できるスペースで活動を行っていたが、使用を止めていることが心苦しい。地域づくりに協力・貢献していきたい。

委員長 コロナが人のつながりを切ってしまうている。経験をつなげることも難しい状況である。

委員 富岡地区の懇談会・アンケートの結果を出すのはこれからである。コロナで制限をして実施した。高齢者の声として、介護タクシーは費用が高くて何度も使えないという意見がある。人とのつながりが切れてしまう。地域では後継者がいないという課題もある。

委員 親亡き後の課題として、地域包括ケアシステムは精神障害のある方にも共通している。ワンストップの相談は重要であり、住民が困るのは「たらい回し」されることであるため、しっかりとした交通整理が必要である。人材発掘の点でイベントを実施する民間有志の方との連携も必要である。今之浦公園での「リバーサイドテラス」や長野での「紬ぎ場」というイベント、豊浜のビーチクリーンなどが挙げられる。民間の有志が行う企画とコラボするのも良いと思うし、人材発掘の面でも有効だと思う。障害者が一緒に楽しめるスポーツとして、ボッチャ、モルック、ペタンクなども良いと思う。

委員 千手堂に「千友会」というおやじの会がある。主に40代が活動している。地域の子どものために、夏祭り、秋祭りなどの際に射的などイベントの企画や、月2回アルミ缶や古紙回収をして、祭りの原資にしている。8年前に引っ越してきて加入した。当時私は地域での交流やつながりがなかったが、会により同じ世代で交流できた。退職後に何もすることがないということはない。孫がいる年代になった人も地域のために活動している。

良い活動だと感じている。

委員長 「人づくり、地域づくり、仕組みづくり」の構成である計画書案の各所にスペースがあるようなので、こうした地域での活動エピソードを紹介できれば、市民により身近に感じてもらえるのでは。

#### 5 その他

- ・事務局から今後について説明。本日のご意見をふまえて加えた方が良いと感じたことがあったので、修正を加えて次回の資料を含めていきたい。パブリックコメントとして公表できる資料を次回お示しして、ご意見をいただきたい。
- ・次回の日程 日時：1月30日（月）午後1時30分  
会場：豊田支所（アミューズ豊田 大会議室）